

令和7年度 第2回学校運営協議会 議事録

○日時 9月20日(土) 10:00~11:10

○場所 応接室

○出席者 委員 倉田慎一(校長) 新井立夫委員 山上達彦委員 高橋哲也委員
牧野桃子委員 諏訪理恵委員
職員 原晶子(副校長) 水本由紀子(教頭)

○次第

1 学校長挨拶

2 協議事項

(1) 令和7年度茅ヶ崎西浜高等学校中間報告 資料に基づき、校長より説明

【質問・意見】

委員：研究指定校となっているプログラミング教育は、単にプログラミングを教えることではなく、探究活動と深く結びついているものと考えられる。教科横断的な学習をうまく取り入れられると良い。「自己肯定感」がキーワードである。キャリア教育や生徒指導においても、自己指導力を養い、社会的経済的自立ができる人物の育成を目指す必要がある。経験を積み、失敗しても結果を出すことが大切である。学校は快適でかつ成長できる場所であるべき。協調性を育み、チームワークを学ぶとともに、やりたくないこともやらなければならないことを学ぶ上で、学校行事はとても有効である。

委員：自己肯定感は大事である。行事は意味のあるものであると考える。専門学校でも、企業との連携事業等を行い、社会への接続の機会として活用している。

AIの活用が近年進み、生徒は使いこなしているが、オリジナリティが大切である。リクルートの本社の見学はとても良い試みであると考え。見るだけでも、やる気の喚起につながる。

委員：中学校でも、AIを生徒は使うが、活用して自分のものにするスキルが必要であると考え。

中学校でも、キャリア教育として、保護者に仕事とはどういうものかという話をしてもらったり、11月の2日間職業体験を行う予定になったりしている。中学3年生では、自分の将来を考え、自分探究の一環として上級学校への訪問を行う。高校にもつながっていく12年間の見通しを立てたキャリア教育が行えると良い。

委員：将来何をやりたいか考えるのは、大事である。会社に入ってもすぐに辞めてしまう人もいる。若い人はスキルがあるので、伸ばしながら育てたい。先輩たちが活躍している姿を知ることは生徒の励みになると思う。

委員：30年後、40年後には社会が今と全く変わっている可能性がある。変化に対応する力が求められる。「勉強ができる」と「頭がいい」は違う。予期せぬことに対応できるのが「頭のいい」人。今知識は検索すれば簡単に手に入れることができるが、変化に対応する力を身につけるには、自分なりの視点を持ち探究していく姿勢が大切。アントレプレナーシップも求められる。

3 事務連絡

今後の予定

第3回学校運営協議会 令和7年12月6日（土）午前11時40分頃から
（※学校説明会）

第4回学校運営協議会 令和8年3月 書面開催